

事業名	富士の国やまなし館運営事業費		
細事業名	やまなしのワインと食魅力発信事業費	財務コード	673702
担当部課室	観光 部 観光プロモーション 課 やまなしブランド推進 担当 (内線)		4212

事業の概要

実施期間	始期 H22 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(委託)		
事業の目的	だれ(何)を対象に 首都圏の消費者	その対象をどのような状態にして 県産ワインや県産食材の品質の高さを認知している。	結果、何に結びつけるのか 首都圏における県産ワインや県産食材の消費拡大とやまなしブランドの確立
	<p>事業の内容 主にH28年度</p> <p>アンテナショップ「富士の国やまなし館」と同じビルの2階にレストランを設置し、県産ワインや県産食材を使用した料理を提供する。 施設概要 名称: Y - wine (ワイワイ) 場所: 東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル 2階 (127.28㎡) 開設日: 平成22年12月17日 営業時間: ランチ 11:30 ~ 16:00 ディナー 17:00 ~ 22:00 ((土)は ~ 21:30) 定休日: 日曜日、祝日、年末年始等 業務委託先: (公財)やまなし観光推進機構(以下、機構)(機構は、(株)サンティール に再委託)</p> <p>1Fで県産食材やワインなどを販売するアンテナショップ「富士の国やまなし館」との相乗効果が期待できる。 定期的にイベントを実施しており、山梨県のワイナリーによるものや、田崎真也氏によるイベントも開催している。また、最近では日本酒のイベントも開催している。料理については、ほぼ山梨県産食材を使用しており、調味料等についても可能な限り県産品を使用している。 現日本ソムリエ協会会長の田崎真也氏が代表を務めるワイン関連会社</p>		
根拠法令等	なし		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	27年度	28年度		29年度	30年度	事業目標の考え方	
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値		
活動指標	営業日数	292日	290日	287日	290日	290日	目標設定の考え方 県産ワイン・食材の魅力を発信する機会を確保する観点から営業日数とし、過去3か年(H25~27)の実績平均とした。(日曜日、祝日定休日) データの出典等 月次報告書
	活動指標達成率 (実績値/目標値)		98.6 %				
成果指標	来店者数	33,945人	36,000人	36,314人	36,000人	36,000人	目標設定の考え方 県産ワイン・食材の魅力を発信した来店者数、及び同ビルのアンテナショップにおけるワイン販売額とし、来店者数については過去5か年の実績平均、ワイン販売額については、過去4か年の伸び率を踏まえた額とした。 データの出典等 月次報告書
	やまなし館の 県産ワインの売上げ	(36,919千円) H26: 33,246千円	34,800千円	32,965千円	35,000千円	35,100千円	
成果指標達成率 (実績値/目標値)		97.8 %					
決算額又は予算額 (千円) うち-財額	15,009 15,009		14,998 14,998	14,998 14,998	15,865 15,865	成果指標によらない成果	
所要時間(直接分)	420 時間		420 時間	420 時間	420 時間		
所要時間(間接分)	時間		時間	時間	時間		
所要時間計	420 時間		420 時間	420 時間	420 時間		
人件費コスト 単位:千円 (@2,145円×所要時間)	858		858	858	858		

これまでの事業の見直し・改善状況

--

活動量と成果の判断(平成28年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定		活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合に記載すること
H28年度活動指標の達成率	活動量に係る一次評価	
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定		成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること
H28年度成果指標の達成率	成果に係る一次評価	来店者数 36,314 人 (達成率 100.9%) ワイン販売額 32,965 千円 (達成率 94.7%)
b	b	平成23年度をピークに、来店者数が減少傾向にあったが、昨年度は前年度比107%と増加した。一般的に飲食店は開店以後、来店者数が減少し、3年程度で閉店する店が多いと言われているが、営業努力と情報発信により、着実にリピーターを増やし、県産ワイン・食材を使用した料理が楽しめる店として定着してきている。これに伴い、同ビルのアンテナショップ富士の国やまなし館のワインの販売額は、年々増加傾向にあるなど、相乗効果によりやまなしファンの増加につながっていることから、意図した成果をほぼ上げていると考えられる。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成30年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	レストランY-wineは、平成22年12月のオープン以来6年半を経過しているため、集客力アップに向けたリニューアル等について検討していく。	m

・「以外の判断項目」の欄
 a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
 i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: フロアの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	更なるやまなしブランドの確立を図るため、今後以下の点について見直しの検討を進める。 ・ランチの価格設定については、近隣の飲食店の状況等を踏まえ、運営会社と協議を行う。 ・ディナータイムの集客アップへ繋げていくため、県産食材そのものに興味を持っていただけるよう、食材情報の提供手法について見直しを行う。 ・アンテナショップ富士の国やまなし館に隣接する立地の優位性を生かし、アンテナショップとの連携強化の方策について検討を行う。 ・県への納付については、運営業者と協議する。	m

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方向(平成30年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
実施方法等の変更	・ランチの価格設定については、運営業者と協議した結果、近隣の飲食店の状況等を踏まえ、据え置くこととした。 ・ディナータイムの集客アップについては、食材情報の提供手法について、見直しの検討を継続的に行う。 ・アンテナショップ富士の国やまなし館に隣接する立地の優位性を生かし、アンテナショップとの連携強化の方策について、看板の設置など、ビル管理者等と協議を行う。 ・県への納付については、運営業者の経営状況等を踏まえ引き続き協議を行う。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止(施設については「譲渡」)」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること
 ・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること

自主点検シート(事業の内容及び所要時間)に関する附属資料

様式2

所属名: 観光プロモーション課

細事業名: やまなしのワインと食魅力発信事業費

調書番号: 8

事業の内容を細分化した業務名	具体的な業務プロセス(手順)	業務の時期(フロー)	H28 所要時間 (h)	H29 所要時間 (h) A	H30 所要時間 (h) B	縮減等 B - A	具体的業務の見直しの内容	見直しに至った理由等 (又は見直しなしの理由等)
1 業務委託先との連携	運営等打ち合わせ	年間	112	112	112	0		業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため
	県産品情報提供	年間	96	96	96	0		業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため
	イベント情報発信	年間	16	16	16	0		業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため
						0		
						0		
(小計)			224	224	224	0		
2 運営管理事務	業務委託契約事務	4月,3月	32	32	32	0		業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため
	委託金支払事務	3ヶ月ごと	12	12	12	0		業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため
	実施計画、実績報告、月次報告取りまとめ	年間	64	64	64	0		業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため
	施設賃貸借契約事務	4月,3月	32	32	32	0		業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため
	賃料支払事務	年間	56	56	56	0		業務上必要なプロセスであり、最短の所要時間で処理しているため
(小計)			196	196	196	0		
3						0		
						0		
						0		
						0		
						0		
(小計)			0	0	0	0		
所要時間 (計)			420	420	420	0		

(留意事項)

- 1 事業を細分化した業務名は、事務事業を構成する業務ごとに細分化し、その業務名を記載すること。
- 2 具体的な業務プロセス(手順)は、できる限り多くのプロセスを記載すること。
- 3 業務の時期は、業務のフローがわかるように具体的な業務プロセスごとに記載すること。(毎月、四半期ごとの業務等は、その1サイクルの期間を記載すること。)
- 4 各年度の所要時間(計)は、事務事業自主点検シートの「事業の目標、実施状況等」の「所要時間計」と一致すること。
- 5 具体的業務の見直しの内容は、わかりやすく簡潔に記載すること。(県民から見て分かりやすい表現とすること。)なお、見直しがない場合は、「なし」と記載すること。
- 6 見直しに至った理由または見直しなしの理由は、詳細に記載すること。(具体的な業務プロセスごと、または細分化した業務ごとに記載すること。)
- 7 適宜、業務内容に合わせ、行を加除して記載すること。(複数ページ可)